

委 託 契 約 書

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 1 委託業務の名称 | 岩泉地区合同庁舎暖房設備運転管理業務 |
| 2 委託期間 | 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで |
| 3 業務実施場所 | 岩泉地区合同庁舎（下閉伊郡岩泉町岩泉字松橋 24-3） |
| 4 委託料 | 金 円
(うち取引に係る消費税額及び地方消費税額 金 円) |
| 5 契約保証金 | 金 円 |

岩手県（以下「発注者」という。）と （以下「受注者」という。）と
は、上記の業務を委託することについて、次のとおり契約を締結する。

（総 則）

第1条 受注者は、発注者から委託を受けた業務（以下「委託業務」という。）をこの契約書及び別紙「岩泉地区合同庁舎暖房設備運転管理業務仕様書」に基づいて誠実に履行するものとする。

（実施に関する指示）

第2条 発注者は、受注者に対して、委託業務の実施に関し、必要な指示をすることができる。

2 受注者は、委託業務の実施に関し必要があると認める場合は、発注者の指示を受けるものとする。

（委託業務の内容の変更及び中止等）

第3条 発注者は、必要があると認めるときは、委託業務の内容を変更し、又は一時中止することができる。

2 前項の場合において、委託料または委託期間を変更するときは、発注者、受注者協議して書面により定めるものとする。

（完了報告及び検査）

第4条 受注者は、毎日の委託業務が完了した都度、「ボイラー設備運転日誌」を発注者に

提出しなければならない。

2 受注者は、各月の委託業務が完了したときは、遅滞なく「業務完了報告書」を発注者に提出しなければならない。

3 発注者は、前項の業務完了報告書を受理したときは、その日から 10 日以内に業務の完了の確認のための検査を行わなければならない。

4 受注者は、前項の検査の結果、不合格となり補正を命じられた場合は、遅滞なく当該補正を行い、再検査を受けなければならない。この場合において補正後の完了を業務の完了とみなして前 2 項を準用する。

(委託料の請求及び支払い)

第 5 条 発注者は、委託料を受注者の請求により次のとおり支払うものとする。

月額 円

2 発注者は、前項の請求書を受理したときは、その日から起算して 30 日（以下「約定期間」という。）以内に委託料を支払うものとする。

(遅延利息)

第 6 条 発注者は、自己の責めに帰すべき理由により、約定期間内に委託料を支払わない場合は、約定期間満了の日の翌日から支払をする日までの日数に応じ、当該未払額に対して、年 パーセント(注 1)の割合で計算した額の遅延利息を受注者に支払うものとする。

注 1 令和 7 年 4 月 1 日において適用される政府契約の支払遅延防止等に関する法

律（昭和 24 年法律第 256 号）第 8 条第 1 項の規程に基づく遅延利息の率とする。

(違約金)

第 7 条 発注者は、受注者が自己の責めに帰すべき理由により、毎日の業務を欠いた場合は、当該 1 日につき契約金額から既成部分又は既成部分相当額を控除した額につき、年 パーセント(注 2)の割合で違約金として徴収する。

注 2 令和 7 年 4 月 1 日において適用される会計規則第 117 条第 1 項で規程する違約

金の徴収率とする

(発注者の解除権)

第 8 条 発注者は、次の各号のいずれかに該当するときは、契約を解除することができる。

(1) 天変地異その他この契約締結後に生じた事情の変更により、委託業務の実施を継続する必要がなくなったとき。

- (2) 受注者が、委託業務を実施することができなくなったとき。
- (3) 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 条）第 221 条第 2 項の規定に基づいて発注者が行う調査を妨げ、若しくは同項の規定に基づいて発注者が求める報告を拒み、又は第 2 条の規定による発注者の指示に従わなかったとき。
- (4) 受注者が正当な理由なくしてこの契約の各条項に違反したとき。
- (5) 受注者が次のいずれかに該当するとき。

ア 役員等（受注者の役員、その支店又は常時契約を締結する権限を有する事務所、事業所等を代表する者その他経営に実質的に関与していると認められるものをいう。以下この号において同じ。）が暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号。）第 2 条第 2 号に規定する暴力団（以下「暴力団」という。）又は同条第 6 号に規定する暴力団員（以下「暴力団員」という。）であると認められるとき。

イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図り、又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員の利用等をしていると認められるとき。

ウ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対する資金等の供給、便宜の供与等により、直接的又は積極的に暴力団の維持若しくは運営に協力し、又は関与していると認められるとき。

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながら、これを利用するなどしていると認められるとき。

オ 役員等が暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有していると認められるとき。

カ 委託事業を実施するため必要な物品の購入契約その他の契約に当たり、その相手方がアからオまでのいずれかに該当することを知りながら、当該相手方と契約を締結したと認められるとき。

キ 受注者が、アからオまでのいずれかに該当する者を物品の購入契約その他の契約の相手方としていた場合（カに該当する場合を除く。）に、発注者が受注者に対して当該契約の解除を求めたにもかかわらず、受注者がこれに従わなかったとき。

- (6) その他発注者が必要と認めるとき。

（受注者の解除権）

第 9 条 受注者は、次の各号のいずれかに該当するときは契約を解除することができる。

- (1) 委託業務の変更に伴い、委託料が当初の委託料の3分の1以下となるとき。
- (2) 第3条第1項の規定による委託業務の中止期間が履行期間の2分の1を超えたとき。
- (3) 発注者が正当な理由なくしてこの契約の各条項に違反したとき。

(契約解除の場合における委託料の返還)

第10条 受注者は、第8条の規定によりこの契約を解除された場合において、すでに委託料の支払いがなされているときは、発注者の定めるところにより、委託料を返還するものとする。

2 受注者は、前項の規定により委託料を返還しなければならない場合において、これを発注者の定める納期限までに納付しなかったときは、納期限の翌日から納付の日までの日数に応じ、年パーセント(注3)の割合で計算した延滞金を発注者に支払わなければならない。

注3 令和7年4月1日において適用される会計規則第117条第1項で規程する違約金の徴収率とする。

(契約解除の場合における損害賠償金)

第11条 受注者は、第8条第2号から第5号までの規定により、契約を解除された場合は、これによって生じた発注者の損害を賠償しなければならない。

2 発注者は、第8条第6号の規定により契約を解除した場合は、これによって生じた受注者の損害を賠償しなければならない。

3 前各項の賠償額は、発注者、受注者協議して定める。

(機器の使用及び必要経費の負担)

第12条 受注者は、委託業務を実施に必要な次の経費を負担するものとする。

- (1) 機械器具類及び消耗品類に要する経費
- (2) 従事者の制服に要する経費
- (3) その他委託業務に付帯する経費

2 発注者は、受注者が委託業務の実施に必要な次の経費を負担するものとする。

- (1) 光熱水費及び燃料費
- (2) 詰所等に要する経費

(施設等の使用)

第13条 発注者は、受注者に対し、委託業務に従事する者の待機施設として、岩泉地区合

同庁舎ボイラー室（51.52 m²）の一部を無償で提供するものとする。

2 受注者は、発注者の承認を得て、発注者の施設及び設備を使用することができる。

3 発注者は、受注者に対し委託業務に必要な用水、給湯及び電力を無償で提供するものとする。ただし、受注者はその使用に当たっては、効率的な使用に留意しなければならない。

（管理者の責務）

第 14 条 受注者は、委託業務の実施に当たっては、発注者の施設及び設備について善良な管理者の注意をもって取り扱わなければならない

（秘密の保持）

第 15 条 受注者は、委託業務の処理上知り得た秘密を他人に漏らしてはならない。

（損害の賠償）

第 16 条 受注者は、自己の責めに帰すべき理由により、発注者又は第三者に損害を与えた場合は、その損害を賠償しなければならない。

（権利の譲渡等）

第 17 条 受注者は、この契約によって生じる権利又は義務を第三者に譲渡し、又は引き受けさせてはならない。ただし、あらかじめ書面により発注者の承認を得た場合、又は信用保証協会法（昭和 28 年法律第 196 号）に規定する信用保証協会及び中小企業保険法施行令（昭和 25 年政令第 350 号）第 1 条の 3 に規定する金融機関に対して売掛金債権を譲渡する場合にあっては、この限りではない。

2 前項ただし書きに基づいて売掛金債権を譲渡した場合、発注者の対価の支払いによる弁済の効力は、発注者が会計規則（平成 4 年岩手県規則第 21 号）第 38 条第 2 項の規定により会計管理者に支出負担行為の確認をした旨の通知を行なった時点で生じるものとする。

（再委託等の禁止）

第 18 条 受注者は、委託業務の処理を第三者に委託し、又は請け負わせてはならない。ただし、あらかじめ書面により発注者の承認を得たときはこの限りではない。

（不当介入に対する措置）

第 19 条 受注者は、受注者又はこの契約における再委託契約等の相手方が暴力団若しくは暴力団員又はこれらと密接な関係を有する者から不当要求又は契約の適正な履行を妨げる行為を受けた場合は、発注者に報告し、及び警察署に通報しなければならない。

(補則)

第 20 条 この契約により難い事情が生じたとき、又はこの契約について疑義が生じたときは、発注者、受注者協議するものとする。

この契約締結の証として、本書 2 通を作成し、発注者、受注者記名押印のうえ、それぞれその 1 通を保有するものとする。

令和 7 年 4 月 1 日

発注者 岩手県

契約担当者 沿岸広域振興局長

受注者 住所

氏名